

高聲機を通じて...

一萬の會衆に叫ぶ

七日來平の多門師團長

慰靈祭式次第

武名天下に輝く凱旋將軍多門師團長は既記の如く來平日程が七日に繰上げとなり同日午前七時十分郡山發

平郡線にて來郡

前十時卅三分平驛着、驛前から自動車で本町通りを徐行し松ヶ岡公園に至り九名の戦没勇士の寫眞を安置した

忠魂碑 前にて執行

れる戦死者慰靈祭に參列、春木亭にて晝食喫飯の後、平第一校々庭の國防研究會發會式に臨んで郡内より集る一萬の會衆に向つて高聲機を通じて一場の講演を爲し午後三時半から第二小學校の歡迎會午後六時からの住吉屋本店の歡迎會に於て郡民多數の

熱烈なる歡迎を受け同夜は住吉屋本店に一泊明八日午前八時十九分

平驛發にて歸仙の途

に着かれる豫定である因に慰靈祭の次第左記の如くである

- 一、午前十一時式場參列
- 一、石城郡支會長開式の旨を告ぐ
- 一、祭式
- 一、支會長祭文
- 一、在郷軍人聯合分會長祭文
- 一、來賓祭文
- 一、司會者拜禮
- 一、來賓拜禮
- 一、各種團體拜禮
- 一、遺族へ神酒及供物を頒つ
- 一、在郷軍人聯合分會長閉式の旨を告ぐ

先年に懲りて

豚コレラ豫防に

組合が全力傾注

石城郡錦村養豚實行組合では昨年中の豚コレラ發生に依つて全組合員飼養の半数を失つたのに惶れを抱き

本年春期に於ける豚コレラの發生を徹底的に豫防せんと豫防薬の共同購入及び飲城縣方面との取引調査をな

教化講演

好問と磐崎

本縣教化團體聯合會にては來る八日好問村、九日磐崎の兩小學校に於て現下の國情に鑑み國民精神を作興する爲め講演會を催すが講師

學校側から

家庭へ注文

父兄懇談會の席上で

平第二小學校にては來る三日父兄懇談會を催し津田校長が生徒に對する注意に就いて述ふる事は既報の如くであるが更に當日は家庭教育の振興策として左の事項に就いて學校側から家庭へ注文すると

- 一、家庭作業の件
- 一、兒童に對し父親は必ず旅行先より通信して戴き度
- 一、兒童の誕生祝ひを行つて戴き度

校内學力調査

平第一小學校は來る六日より左の如く校内學力調査を

は社會教育主事補岩崎周之助氏であると

三坂村で

葬村

馬目上等兵の遺骨到着

石城郡三坂村出身馬目本二氏は歩兵廿九聯隊第五大隊上等兵として滿洲事變に參加中病に冒され療養中遂に逝去し過般遺骨が到着したので同組合では戦死に準ずるものとなし來る四日午前十時より中三坂小學校庭に於いて盛大な村葬に附する由

年度より魚油魚肥の兼營を行ふ事となつたので來る五日午後一時より同町小學校にて臨時總會を開き規約の制定に就いて協議すると

女高入學許可 磐城高等女學校本年度卒業生平町矢野エクス子は此程日本女子高等學院國文科に入學許可された

師範専攻入學 石城郡小學校教員にして此程本縣師範學校専攻科に入學許可されたるは小名濱高木愛次、玉川今野義禱、四倉青木英明の三氏であると

植田檢事正歸廳 平區裁判所事務視察の爲め來平中の植田檢事正は本日平發午前九時に歸廳した

けふの町村長會議

副組合長には伊藤飯野村長

石城町村長支會總會は本日午前十時より平町役場會議室に於いて開會左記諸案を協議したが支會副會長は飯野村長伊藤飯野之助氏が當選した

- 一、前支會長慰勞の件
- 一、地方財政調整交付金陳情の件
- 一、慰門金交付に關する件
- 一、優良町村視察抽籤の件
- 一、寄附者に對する謝禮の件

青天目教師

柔道五段に

磐城中等學校にては過般來執行された本縣師範學校二部入學試験に左の五名が合格した旨本日通知に接したと

- 鈴木信一 松崎長十郎
- 阿部恒男 根本常夫 酒井武夫

厄落記念に

平第二小學校の左記保護者は三十三歳の厄落し記念として本日同校に時價百二十圓の蓄音機一台を寄贈した

御厩稻荷鎖座 石城郡内郷村字御厩部落では此程工費三百圓を以つて萬匠地稻荷神社を建設する事となつたので來る五日午前十一時より擧式ある由

珠算競技期日

平第一小學校に於ける珠算

競技會は來る二十日開催する事に決定した

平町卒業送別

平商學校にては來る三日午後一時より本年度卒業生三十八名の別會を催すと

平町人事

- △胡摩澤一二二 古川一三 氏長女英子
- △鎌田町五 當時石城郡上遠野字仲町五五 影山甚作 (三七)

美味!

芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町 電話一〇七

山道に装置した爆薬

轟然と爆破す

何者の所業か?

捜査の結果密獵と判明

石城郡上遠野村大字深山田字折部佐々木千代太郎方の番犬が去る廿七日同郡警崎村宇煙窪地内湯の嶽の山道で何者が装置した爆薬に觸れて轟然と爆破した爲め此の爆薬使用が何者の所業ならんと平署が全力を擧げて捜査中の處同村生田日虎次(七)が密獵する考へから同村避病院の雜役武田一郎の所持して居た爆薬を忍かに買求め山狩りして多數の獲物を得んと前記山中に装置したのである事判明生田日は火薬取締法違反として同署に引致され目下取調中

温い教室

尋二全級に

暖房装置を

豫算委員の意見纏る

平町各小學校は數十年前の學校火災あつて以來火の氣に懲りて各教室には全然暖房装置を施さぬ慣例となり

豫算委員にて町議の間に尋二以上にはストーブの設備なく授業にも支障を來す場合が尠くない状態である所端なくも目下開會中の豫算委員にて町議の間に此事が

問題視

が身ぶるいしながら教授を受けて居る様子が餘りに無慘である爲め本紙が大いに暖房装置の必要を力説したのが動機となりストーブの寄附を爲す奇特者現れ現在では尋常一年の教室に此装置が施されてあるが

依然として財政難が

本會議に附される事

になつたが此の修正意見は可決の可能性が充分であるから今後は可憐な尋常二年生と夜學生が寒氣から救は

白石玄海氏が...

聚樂館で軍事講演

平町軍人分會青年團では聯合して誠忠會理事白石玄海氏を招き一、二の兩日午後六時より聚樂館に軍事講演會を催す事になつたが演題は左の如くである

- 一、日米戦争勝敗論
- 一、米國侵略史

是れは又

ダイナマ密漁

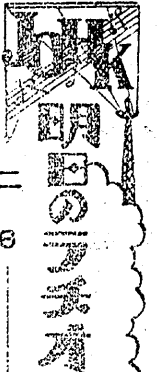
五名檢舉さる

石城郡内郷村字高坂居住坑夫田原貞雄(三)及び佐藤久一郎(三)小山源一郎(三)舞木平吉(四)好間村字町田舟木七郎(五)の五名は昨年八月中田原が磐炭倉庫より窃取したダイナマイト四十本を使用して山田村地内鮫川上流にて密漁をなした事を此

落磐壓死

作業中に

石城郡湯本町字八仙居住入山炭礦坑夫赤津鶴吉(四)は昨廿八日午前一時頃同礦四



今晩も明日も北西の晴れ時々曇り

明日の部
前二〇三〇 家庭講座
「お人形の御先祖」西澤箭
後二〇五 音曲「吹き寄せ」三遊亭萬福
後二〇〇 家庭大學講座「哲學」六 大島正徳
後六〇〇 子供の時間
童話劇「人形師の夢」東京放送童話劇協會
後六二五 講演「壽府外

代表公署より中繼 鮑觀
後八三〇 ラデオドラマ「國性爺合戦」友田恭助其他
後九〇五 明清樂「飲中三仙」其他平井連山社中
後九四〇 全國ニュース

地球節と 平第二
平第二校 小學校
にては來る六日の地球節當日津田校長の講話あつて尋常科第三學年生以上に對し「母の印象」と題する綴方を作らせ尋常一二年生に對しては各受持訓導が「母の恩に就いて」の説話をなすと

豐間衛生視察 石城郡豐間村衛生組合では五日午後一時より同村小學校に役員會を開き本年度事業としての優良衛生組合視察の人員選を協議する筈

公金三千六百圓横領

永山收入代理の罪状

石城郡川前村大字柳立百二十四番地同村收入代理永山新三(三)に對する業務上横領事件は過般來平支部に於て荒井審判事取調中の處昨日終決有罪と決定したので近日中島裁判長係の下に公判開廷される事になつたが事件の内容は昭和三年十二月より昨年二月迄の間收入代理として勤務中自己取扱ひに係る村税其他の公金三千六百圓を横領費消したものであると

平裁判たより

衰弱者の家出 石城郡好間村大字上好間町田農渡邊晋吉次男義雄(七)は去月中より神經衰弱となり自宅で静養中全治せぬのを悲感して去る廿七日午後二時頃平町で診察して貰ふと家を出た儘行衛を晦したが自殺する懼れがあると本日實父より平署に捜査方を願出した

- 交と聯盟會議「鷲澤與四次
- 後七三〇 講演「アジア聯盟の結成と世界の平和」村川堅固
- 後八〇〇 常磐津「伊賀越道中双六 平作腹切の段」常磐津政太夫連
- 後八三〇 落語「花見の仇討」橋家圓藏
- 後九〇〇 獨唱とピアノ六曲伊藤敦子 ジェームスダン
- 同郡植田町大字仁井田字寺前二番地鍛冶職大貝年藏(三)は昨年八月中の夜同町小野シノ方外二ヶ所に故なく侵入し住居侵入罪として罰金二十圓に日本各平區裁判所に於て略式命令を以て處分された
- 同郡小川村土木疑獄の中心人物工事監督同村々議田久兼治(四)は本日檢事局に於て取調への結果起訴收容され直に平支部の豫審に廻附された
- 平職業紹介所報告
 - 回人を求める方
 - 賣子 四十才迄 尋卒 賣上の二割(双葉郡某)
 - 農夫 三十五才 年七十 圓位(高久村某)
 - 雜夫 三十才前後 尋卒 給料面談(江名町某)
 - 回職を求める方
 - 事務員 三十才 商業卒 給料面談(平町某)
 - 事務員 二十一才 簿記 給料面談(鹿島村某)
 - 商店配達 二十才 高一 給料面談(内郷村某)

幕末剣士

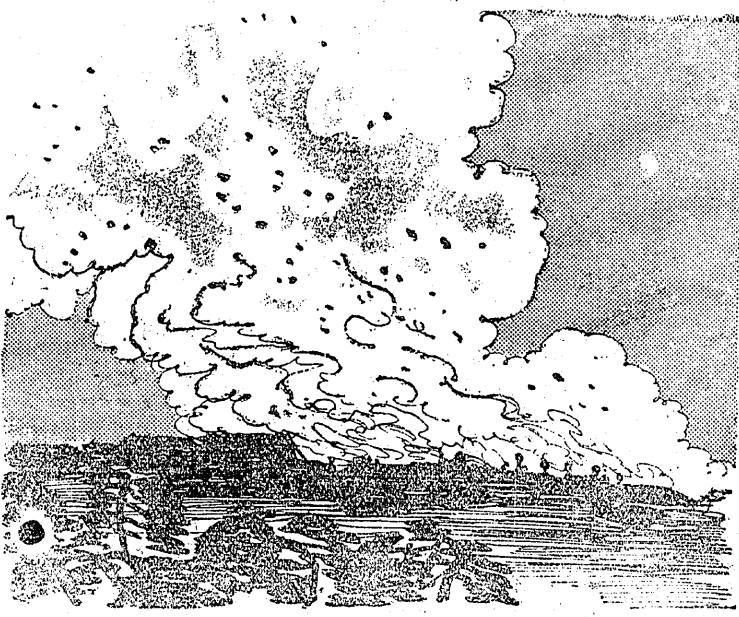
【禁轉載上演及映畫】

第二百七十九席

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫
佐々木見山

江戸名物の大火事
有馬家の指雨役菊地大六は品性劣等、門人から遣ひ物が途切れるとボカ／＼打つ遣ひ物が来るとやけにかく教へる、門人は不平であるが大六が出来るから據なくこの人に就て教を乞ふ。

乗入れ指揮を致した、風が強いからブーツと火は渦を巻きながら浪の如く押寄せ、火の勢ひは恐ろしいもの、彼の十二年九月一日の震災の夜わたくしは船に乗つて新大橋の傍にゐて濱り



事で風が惡いから増上寺へ火の粉が雨のやうに落ちる。玄蕃頭侯は火事装束に身を固め、手勢百人あまりを率ゐて増上寺へ駆け付け表門を固めて消防夫に指揮いたす。大六は初めて江戸の火事を見て豫て聞いてゐたが消防夫は勇ましい働きをする。感心した、二代公(秀忠)の御廟所にバラ／＼火の粉が降る、燃え付いては大變と玄蕃頭侯は山内へ馬を

兩岸の焼るを見ましたが、猛火は大浪の如く高く低く風に煽られて押寄せ、何物でも焼盡さねば止まぬといふ勢ひのはげしきこと、火とは思へない一個の怪物があらばれ廻るやう、實にびつくりしました、今増上寺に吹付ける火は是亦怒濤の如

門前の町家を焼又は大名旗本邸を灰にして御霊屋をさして襲ひ来る、玄蕃頭侯は聲をからして下知をした。家臣及び消防夫は必死になつてこれを防ぐ、有馬侯は馬を乗廻して此處を防げと申したが、どうやら火勢も衰へそれに風が變つて火は櫻川町の方へ吹き出すその内にやうやく消止めた、ところが家來が四方に散つて馬の傍には誰も居らぬ、茲で玄蕃頭侯は一人赤羽の邸に引揚げやうと橋を渡る。そこに夜蕎麥賣が荷を下しゐる、ところへ家來が後

を慕ふて五人程駆け付けた。この中には菊地大六も居る。玄蕃頭侯馬を止めてヒラリと飛おり夜蕎麥賣の前へガリと来たが殿「其方は蕎麥を商ひ居るか」

殿「蕎麥をこれへ出せ、空腹を覺えた」
○「へ、おそばを召上りますか」
と云つた時附添つてゐた家來が驚いた。家臣「お邸へお引揚げ遊ばしてお湯漬を召上りますやう」
殿「イヤ、毎時邸にて風鈴の音を聞く、あれは何か」と聞いた夜をば賣だと申したが今宵これにて出會いたしたが幸ひ試みるであらう、爺早くそばを出せ」
○「へ、おそばはしつほこに葱南蠻、花巻五もくでございます」

殿「大分種類があるナ、しつほこは何か」
○「へ、これには色々の物が入つて居ります」
殿「茶を入れたそばか定めし價も高いことであらう」
○「種物は廿四文でございまして、只のおそばは十六文でございませう」
殿「ハ、ア十六文それは安いナ、しからは只のそばに致す」
○「服装はよいが吝な持が来たへエ只今差上げます」
井へそばを盛り熱い汁をかけて割箸を添へ盆に載せて出した、有馬侯はそれを見てゐたが殿「コレ、爺、箸が一ツでは食すことにはなるまい、今一ツ持て」
と云つた時に側にゐた津田金彌と申す者が金「御主君斯様遊ばせ」
と云ひながら箸を取上げ前歯をあてるとサラリとこ

れが二つに割れた。殿「さて、不思議、一つの箸が二つになる奇なる事であるナ」
と大層感心した、我々には珍しくはないが大名は珍しい、或諸侯が普請場を廻つた時に職人の吸付け煙草をしてゐたを見てさて、下々の者はあはれな境遇である、一服の煙草を二人で喫むといつたさうですから割箸を見て不思議に思ふのも尤も

目丁二町平

三井タクシ

番五八六話電

一册の代金で
御希望通りな
五册の雑誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
申込次第(規則書等)

胃腸病薬の王座を占むる純漢法薬

松前 家傳

靈効散(無効返)

ホントに北海道で出来た靈薬が着荷致しました。今迄のは福島市内で製薬したので兎角の批評がありました。今度のものは真正のもので奏効確なものです。服用しなくては其の眞價が判りませんから、皆様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸病に苦しむ方、惱病、心臓、痔疾の方は是非御試し下さい。クセにならず根治致します。小兒用の靈効散も出来ました。

定價
試用分(八日分) 輕症用(廿日分)
重症用(四十五日)

販賣部 地方代理店
平町古鍛冶町縣社ノ下
阿康藥舖
電話四四番

吸入用酸素純度99%

モノサシ
マラス
ハカリ

体温器
寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局
電話四〇番

磐城セメント會社特約店

久全屋商店

磐城平町五丁目 電話九番九九番

良品廉賣に勝る商略なし
確實敏捷は生命なり